内資料３

# ユニバーサルデザインの推進に向けた取組
# 「ユニバーサルデザイン2020行動計画」　検討経緯

○**東京大会を契機として、全国にユニバーサルデザインの街づくりや心のバリアフリーを推進**していくため、昨年２月、オリパラ担当大臣を議長とするユニバーサルデザイン2020関係府省等連絡会議を設置し、様々な障害者団体（18団体）等の参画を得て、施策を総合的に検討。（昨年12月までに、**障害者団体の参画する分科会を計12回開催**）

分科会では、有識者、障害当事者団体、関係府省等が混ざり合い、小規模のテーブルを囲んで意見交換

○本年２月、**障害者団体（9団体）の出席**を得て、**ユニバーサルデザイン2020関係閣僚会議**（関係府省等連絡会議を関係閣僚会議に格上げ）を開催し、**「ユニバーサルデザイン2020行動計画（以下、『行動計画』）」を決定したところ**。

第１回関係閣僚会議の様子
（障害者団体も出席）

○今後、行動計画をもとに、**全国において**、**ユニバーサルデザインの街づくり**と**心のバリアフリー**を進め、東京大会の**最大のレガシー**とすべく、関係府省と連携し一丸となって取り組んでいく。

# 行動計画　概要

## 1．共通の認識

・**2020年のパラリンピック**は、共生社会の実現に向けて**人々の心の在り方を変える絶好の機会**であり、この機を逃さず、国民全体を巻き込んだ取組を展開すべき
・「**障害の社会モデル**※」の考え方を共有し、全国で人々の**心にある障壁**の除去に向けた取組（「心のバリアフリー」）及び**物理的障壁**や**情報にかかわる障壁**の除去に向けた取組（ユニバーサルデザインの街づくり）を進めるべき

## 2．政策立案段階からの障害者参画施策

・障害者に関する施策の検討及び評価に当たっては、**障害当事者が委員等に参画し、障害のある人の視点を施策に反映**させること

## 3．主な具体的施策

### 「心のバリアフリー」

・2020年度からの**学習指導要領改訂**を通じ、**すべての子供達に「心のバリアフリー」を指導**
・今年度以降、接遇を行う業界（交通、観光、流通、外食等）における**全国共通の接遇マニュアルの策定・普及**
・障害に対する理解を持ち、**困っている障害者等に自然に声をかけることができる国民文化**の醸成に向けた仕組みの創設

### ユニバーサルデザインの街づくり

・今年度中に**交通バリアフリー基準（省令）・ガイドラインを改正**
・本年3月にホテル等の**建築物に係る設計標準を改正**
※**バリアフリー法**を含む関係施策について、**今年度中に検討等を行う**等により、そのスパイラルアップを図る。

## 4．2020年に向けた実行性担保のための継続的な方策

・2020年にこれら施策が確実に実現されるよう、**障害当事者等を過半とする評価会議を毎年開催**し、関係府省等が施策を改善することにより、実行性を担保

※「障害」は個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によって創り出されているものであり、社会的障壁を取り除くのは社会の責務であるという考え方

# 企業・地方自治体における「心のバリアフリー」教育の実施

○平成28年度に、内閣官房がオリンピック・パラリンピック等経済界協議会と連携し、障害者団体等の意見を取り入れ、「心のバリアフリー」の**汎用性のある研修プログラム**を策定。**平成29年度以降、全国に展開**するとともに、幅広い産業における研修等の実施に向け活用。

○本研修プログラムを国家公務員に対する「心のバリアフリー」研修の検討に活用するとともに、**29年度以降、**国家公務員の取組を**地方公共団体に向けて周知し、地方公務員にも同様の研修が実施されるよう働きかける。**

アクセシビリティサポートガイド基礎編（東京大会スタッフ向け）

経済界にある既存の研修プログラム好事例

反映

**汎用性のある研修プログラム検討委員会**

（学識経験者、障害者団体、経済界協議会等が参画）
※平成28年11月～平成29年3月に4回開催

**試行実施**

（経済界協議会の協力を得て、2箇所及び企業研修担当者に対し実施）※平成29年2月

**内閣官房のHPで公開**

**汎用性のある研修プログラム**

**※障害者参画を基本**

「心のバリアフリー」に向けた汎用性のある研修プログラム

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/udsuisin/program.html

交通、観光、外食等関係業界における接遇マニュアルの策定に活用

平成29年度以降、経済界協議会を中心として本格実施し、中小企業を含め全国の企業に広く周知

※経済産業省とも連携

**国家公務員に対する「心のバリアフリー」研修の検討に活用し、全国の地方公共団体へも周知**

# 異文化、障害への理解とコミュニケーションを促進する国民文化の醸成

## コンセプト

異文化、障害等に対する理解を深め、外国人、障害者等との双方向のコミュニケーションを実践しようとする意思を持つ人々が、統一のマーク・シンボルを着用し、2020年を契機に、誰もが当たり前のようにこれらの行動を行う社会に変革するムーブメントを起こす。

## 1. 制度概要

全国統一の「マーク」を着用し、外国人観光客や障害者等に声かけやご案内等を行うマインドを見える化

**全国統一マークの創設**

- インバウンド：外国人観光客への道案内等の活動
- バリアフリー：障害者・高齢者等へのサポート活動

- ✓ 手助けが必要な時に、全国統一マークを付けた人に気軽にお願いできる仕組み
- ✓ 取組に賛同する全国の人々の連帯を促進

## 2. 全国展開の考え方

- ✓ 様々な取組主体（学校、企業、地域等）を巻き込み、一体的なムーブメント創りを行う
- ✓ 既存の取組と連携し、相乗効果により、活動を活性化

## 3. マークのあり方

＜ポイント＞

- ✓ 視認性のよさ
- ✓ 誰もが付けたくなる格好よさ
- ✓ 既存の取組と共存共栄できる形式・デザイン

## 4. 展開イメージ

**大会ボランティア**
競技場内の活動

**都市ボランティア**
開催都市・競技会場の所在する関係自治体での活動

**全国各地での取組**

（既存の取組）
- 語学系
- バリアフリー系

2020年東京大会

9万人以上

連携

*2020年以降も継続できるよう、民間企業を巻き込み自走する仕組みを構築し、レガシーとする*

**外国人観光客、障害者等を対象とした新たな取組**

**平成30年度を目途に展開できるよう、協議会を立ち上げ制度の具体化を図る**
**ホストタウン、事前キャンプ予定地をはじめ、各自治体でも活用いただけるよう設計**